

中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年2月21日号

◎2008年1月トウモロコシ市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年1月におけるトウモロコシ市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 2007年のトウモロコシ輸出は増加、輸入は減少

海関統計によると、2007年12月のトウモロコシ輸出量は、前年同月比99.6%減の4.3万トン、同じく輸入量は12.9倍増の1.2万トンとなった。2007年通年の累計輸出量は前年比57.7%増の484.7万トン、累計輸入量は46%減の2.3万トンとなった。中国のトウモロコシの主要輸出相手国は韓国で、総輸出量の65.4%を占めている。その他重要な輸出相手国として日本、マレーシア、インドネシアなどがある。2007年のインドネシア向け輸出量は4.7倍以上の増加で、韓国及びマレーシア向けは50%以上の増加幅となった。2007年の東北三省および内蒙古自治区のトウモロコシ輸出量は、全国の総輸出量の95.3%を占めた。

2 トウモロコシの国際消費速度は増加、需給矛盾が一層進展

2007年の世界のトウモロコシ生産量は大幅に増加したが、消費の増加も急速に進み、需給の逆転が一層進展した。米国農務省（USDA）の1月の予測によると、2007/08年度の世界のトウモロコシ生産量は前年度比8.9%増の7.67億トンとなり、史上最高を更新するとみられている。ただし、世界のトウモロコシ消費も引き続き急速に増加し、7.3%増の7.72億トンと見積もられている。このため、供給が需要を満足することができず、期末

在庫は5.6%減の1.01億トン、在庫／消費比は13%となり、安全水準（17～18%：国連食糧農業機関（FAO））を下回ると予測されている。また、米国のインフォルマ社の予測によると、2008年の米国のトウモロコシは種面積は、前年比6.6%減の8,740万エーカー（約3万5千ヘクタール：1エーカー＝0.4046ヘクタール）と見積もられ、世界のトウモロコシ需給のひっ迫状況は、短期間には変えることができないとみられる。

3 国内のトウモロコシ価格は高水準ながら下落、東北の生産地の下げ幅が比較的大

2008年1月の国内生産地のトウモロコシの平均卸売価格は1トン当たり1,618円で、前月比0.4%安、前年同月比14.9%高となった。うち東北地方の生産地価格の下落幅が比較的大きく、前月に比べ1トン当たり19元（1.2%）安となった。消費地におけるトウモロコシの平均卸売価格は1,917円で、前月比25元（1.3%）安となった。

農家販売価格も下落したが、前年同月に比べ明らかに高水準であった。1月の吉林省、黒龍江省、山東省、河北省、河南省の5主産地における国有食糧企業の三等トウモロコシ標準品の買入価格は1トン当たり1,526元で、前月比1.4%安、前年同月比13.6%高となった。うち吉林省のトウモロコシは前月比1.9%安、前年同月比6.5%高となった。販売価格と比べると、国有食糧企業のトウモロコシ売買差額は1トン当たり35元で、前年同月に比べ6元高となり、利潤は前年に比べやや増加した。ただし、コスト高を反映して、価格が大幅に下落する可能性は大きくはない。

4 国際価格は大幅高騰、内外価格差は引き続き拡大

世界のトウモロコシ消費量が急増するという前提の下、2008年は米国のトウモロコシは種面積の減少が予測され、需給の逆転がより進展し、国際価格が大幅に上昇するとみられている。2008年1月の米国メキシコ湾における2号黄色トウモロコシの平均離岸価格（本船渡し価格＝FOB価格）及びシカゴの先物価格は、それぞれ1トン当たり203ドル及び196ドルで、前月比13.6%高および17.5%高、前年同月比24.6%高及び27.0%高となった。

トウモロコシの国際価格の上昇と国内価格の下落により、トウモロコシの内外価格差は引き続き拡大した。広州の黄埔港では、1月の米国産トウモロコシの通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）が、同時期の国産トウモロコシの国内港到着価格よりも、1トン当たり800元以上高かった。